

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成20年度 富山いずみ高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学 習 活 動 の 充 実
重点課題	・学力の向上と定着を図る家庭学習習慣の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の習慣が身に付いていない生徒や家庭学習をしない生徒も見受けられる。 ・生徒の中には進路目標が明確に定まらないことが、学習意欲に影響を与えている場合がある。 ・教科によって成績にばらつきが見られる生徒が多い。 ・H19年度の生徒の授業に対する満足度(アンケート調査)は、3.8/5.0であった。
達成目標	①家庭学習時間を平均2時間以上にする。
	②授業の内容を充実させ確かな学力を付ける。
	実態調査での達成度
	70%
	アンケート調査で、生徒の授業に対する満足度
	4.0/5.0(5点満点で全教科・全生徒平均)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活パターンを各自で作らせ、学習習慣の定着・改善を図る。 ・担任等による面接を充実させる。 ・小テストや課題テストを計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する満足度調査を学期に1回程度実施する。 ・各授業のねらいを明確にして、その目標を達成するための授業の工夫をする。 ・互見授業を年1回以上実施し、指導法等の授業改善に関する研修会を行う。
達成度	1学期(平日40% 休日73%) [全学年] 2学期(平日41% 休日74%)] 3学期(平日33% 休日53%) — [1・2年]
	1学期(3.8/5.0) [全学年] 2学期(4.1/5.0) [3学年] 3学期(3.9/5.0) [1・2年]
具体的な取組状況	①週末課題などを適宜課して、学習習慣の定着を図った。 —各学年の取り組み状況— (1年)学習記録簿を11月から継続して書かせる。各教科の学習時間を分単位で書かせ、月当たり3600分を目標に取り組みさせた。 (2年)生活記録表を記入させ、家庭学習の徹底を指導した。 (3年)早期に進路目標を設定させ、学習意欲を高め夏期補講や土曜講座等で学習の補充を行った。 ②授業のベルが鳴る前に、着席する習慣を定着させるよう促した。 生徒に授業評価を実施し、分かり易い授業になるように工夫した。
評 価	① C 休日はほぼ目標を達成することができたが、平日の学習時間を2時間以上にする目標にはまだまだ達していない。
	② B 学期によるばらつきはあるが、今年度目標とした4.0/5.0の数値目標を達成することができた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間の増加は難しいが、机に向かう時間を増やすことの大切さを自覚させて欲しい。 ・学習時間の増加は必ず学力の向上につながることも体験させて欲しい。 ・学習記録簿の取り組みは継続して欲しい。 ・ベルと同時に授業が始まり、また終わることは生徒の学習意欲を刺激することになると考える。 ・必要なことを短時間にやれるポイントをつかませる指導が大切。
次年度へ向けての課題	①進路意識の向上を図る方策を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、4年生大学への進学希望者は家庭学習時間が長いものの、進路未定の生徒は家庭での学習習慣も身に付いていない。早い段階で進路意識を喚起し、意欲的な学習に結びつける。 ・入試に対応できる学力だけではなく、将来の進路に必要な学力を身につける必要性に気づかせる。 ・進路実現に直接関連しない教科・科目に対する意識づけと意義づけの工夫を図る。 ②生徒による授業評価や互見授業をもとに、授業内容を工夫し、より分かり易い授業を行う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学 校 生 活 の 充 実			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故の減少と乗車マナーの向上 ・紙のリサイクルの促進と燃えるゴミの減量 			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車と車の接触事故が、毎年10件程度起きている。 ・全体的に交通安全に関する意識が低い。 ・自転車の2人乗りや、音楽機器を使用しながら乗車する生徒がいる。 ・駐輪場における駐車マナーの悪い生徒が相当数見受けられる。 ・ゴミの減量化が叫ばれている中で、本校では以前からリサイクルを推進し成果を上げている。しかし、ゴミの分別をせずに捨てる生徒もいる。 ・自分が飲んだペットボトルや空き缶を、水洗いしないで捨てる生徒が多い。 			
達成目標	①自転車に関する事故	②自転車に関する道路交通法に関する試問の実施	③燃えるゴミの減量	④ペットボトル ・空き缶の洗浄
	前年度比50%減	全員の生徒の正答率90%以上	前年度比10%減 H19年度燃えるゴミの量1日平均10袋(45リットル)	洗浄率90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の路上で定期的に乗車指導を行う。 ・定期的に駐輪場における指導を行う。 ・講師を招いて交通安全に関する講習会を開く。 ・生徒規律委員会の生徒を中心に、ホームルームにおいて、交通法規に関する研修を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ集積場で、保健委員がゴミの分別指導を行う。 ・ゴミ袋の中身の点検とゴミの量を記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ減量推進ボランティアサークルで洗浄推進活動と点検・記録をしていく。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ① 2学期末までの事故報告件数が15件で昨年度末より増加している。 ② 1, 2年生対象に交通法規テストを実施し、平均点は7.87点(10点満点)であった。 ③ 1日平均9袋に減っている。 ④ ゴミ集積所に持ってくる段階での洗浄率は50%程度である。 			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 自転車の乗車に関するアンケートを実施するとともに、交通安全街頭指導の回数を増やした。 ② 交通安全意識を高めるために、法規に関するプリントを3回配布した。 ③ 週3回集積所でゴミの分別の徹底を呼びかけた。 ④ 生徒会執行部を通じて缶・ペットボトルの洗浄を呼びかけた。 			
評 価	① C	交通安全街頭指導の回数を増やすなど指導に努めたが、報告件数が昨年度より増加した。		
	② C	法規試問に対する準備が、プリント配布にとどまってしまう、交通法規テストの正答率が目標に達しなかった。		
	③ B	教室でのゴミは減っているが、可燃ゴミに缶が混じっていたり、スプレー缶が何の処置もされずに捨てられていた。		
	④ C	水場が少ないということもあって、洗浄の徹底しにくい面もある。		
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故が多いのに驚いたが、大人の無灯火・傘差し運転も多い。高校生のうちに、正しいマナーを身につけさせて欲しい。 ・ごみの分別は習慣の問題で、町内のごみ集積場でも毎日困っている。富山いずみ高校の取り組みには敬意を表する。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 車両に対する危険回避だけでなく、歩行者の安全に対する配慮ができるよう意識を高めたい。 ② 交通法規について意識を高められるような機会を確保する。 ③ ゴミ分別の徹底と同時に、一層のゴミ減量化を図る。 ④ 衛生面から、飲み残しをなくし、処分してから廃棄することを意識づける。また、決まった場所にきちんと捨てる指導を図る。 			

(評価基準

A: 達成した

B: ほぼ達成した

C: 現状維持

D: 現状より悪くなった)

重点項目	進路支援の充実		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実 ・確認テストの実施 ・社会人や大学等の先生による講話の実施 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」(総合学科)や様々な進路ガイダンスを通して、進路や職業について考察を深めているが、進路に対する意識が甘いため、学習が習慣化されていないものもある。 ・学習態度はまじめな生徒が多いが、中には基礎学力が定着していないものも見られる。 		
達成目標	①面接指導の充実	②確認テストの実施 (1・2学年)	③社会人や大学等の先生による講話
	年 5回以上	各学期 1回	年 3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任との面接を充実させる。また担任以外の先生と話す機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導を充実し、確認テスト等により、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な講話を通して、多様な考え方や見方を身に付けさせる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による面接指導回数 1年：7回以上/1人(副担任の面接指導を含む) 2年：5回以上/1人 3年：6回以上/1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語、国語、数学の3教科で各学期に1回ずつ確認テストを計画的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科 1年：11回17h(23人) 2年：3回3h(15人) 3年：2回2h(2人) ・看護科及び看護科専攻科 全体：2回9h(2人) 専攻科：1回2h(1人)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・担任との面接は、 (1年)高校生の生活習慣へのスムーズな移行の支援及び次学年への科目選択の指導を中心に実施した。 (2年)学習及び進路を中心に実施した。 (3年)学習及び就職・進学のための進路支援を中心に実施した。 ・就職・進学の面接・小論文試験等への支援のため、担任に限らず全先生方の協力を得て面接指導を計画的に実施した。 ・基本事項の定着をはかる目的でどの教科も範囲を絞って確認テストを実施した。 ・社会人や大学等の先生による講話・模擬授業が多く実施され、概ね好評であった。また、上記以外にも、「先輩(3年生)から学ぶ」という講話も実施した。 		
評 価	① A	担任等による面接指導は回数も内容も目標を概ね達成した。	
	② B	確認テストは、基礎学力の定着を目的として学期毎実施した。	
	③ A	講話は19回(43名の外部講師)実施し、生徒への刺激となった。	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援の取り組みは三本柱できめ細かく構成されている。面接を通したより充実した高校生活、確認テストを通したより習慣化した学習、講話を通じてのより高い目標、が身につくのだと考える。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ①面接指導については、より生徒の状況(例えば進路意識)に応じた指導法となるよう充実が求められる。 ②就職を希望する生徒にとっても、進学を希望する生徒にとっても、さらなる基礎学力の充実と伸長が不可欠である。 		

(評価基準

A：達成した

B：ほぼ達成した

C：現状維持

D：現状より悪くなった)

重点項目	特 別 活 動 の 充 実			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事・体験的な活動・部活動の充実 ・読書意欲の向上と読書習慣の定着化 ・生徒図書委員の活動の充実 			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や文化部発表会、スポーツ大会などの学校行事の運営が役員の生徒によることが多い。 ・生徒がボランティア活動や地域の活動に参加する機会が増えているが、活動の意義を十分理解していない場合も見られる。 ・部活動は加入率も高く、活動の成果も徐々に上がっているが、生徒の自主活動においていくつかの問題がある。 ・生徒一人あたりの年間読書冊数は、昨年度より増加している。しかし、読書量の個人差が大きく、読書意欲に乏しい生徒もいる。 ・生徒図書委員会の活動は活発であり、使命感を持って取り組んでいる。 			
達成目標	①学校行事の満足度	②ボランティア活動や体験的な活動に興味関心を持つ生徒の割合	③年間読書冊数	④生徒図書委員会による企画展の開催
	アンケート調査で80%以上	アンケート調査で50%以上	一人7冊以上	年5回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化を図るため、学校行事の効果的運営を検討実施する。 ・学校行事に対するアンケートを継続実施し、生徒の満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動や応援態勢づくりをし、ボランティア活動をより活発化させる。また、アンケートを実施し、生徒の関心度を調査する。 ・部活動のリーダーを対象に研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「LIBRARY」の発行など、機会を捉えて図書を紹介する。 ・「統一HR」や「朝読書」の実施、「読書履歴カード」の記入などを通して読書意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマを設定し、内容を充実させる。 ・展示の仕方を工夫する。
達成度	体育大会 : 82.1% 文化部発表会 : 62%	ボランティア活動に興味関心を持つ生徒の割合 : 82.7%	一人8.3冊	5回開催
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 各行事において、前年の反省に基づいて計画を作成。生徒実行委員会の主体性を重視。 ② ボランティア参加の呼びかけ、調査結果をもとに懇談会を実施。(部)運動部対象講習2回 ③ 「LIBRARY」の発行や推薦図書・ブックレビューの掲示など、随時図書の紹介を行った。 ④ 話題性のあるテーマや身近なテーマで企画展を開いて図書への興味を喚起した。 			
評 価	① B	参加する側、観る側ともに楽しかったと回答した生徒が多い。		
	② B	生徒会の取り組みに位置づけた。校外の活動に参加する生徒が多い。		
	③ A	目標冊数を達成した。特に1年生の読書冊数が多い。		
	④ B	図書委員が自覚を持って取り組み、内容によっては生徒たちの反響もかなりあった。		
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での体験活動や調査活動の機会が増えることを期待する。 ・現状に「生徒図書委員会が使命感をもって取り組んでいる」とあり、素晴らしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 本年の反省を活かした行事運営を継続する。 ② ボランティア意識を持っているが、実践がともなわない生徒への働きかけ。 ③ 全校的な読書の気運をより高め、読書意欲の高揚を図る。 ④ 行事の企画・運営を通して図書委員の自主的な活動を支援する 			

(評価基準

A : 達成した

B : ほぼ達成した

C : 現状維持

D : 現状より悪くなった)

重点項目	その他（看護科教育の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での学習活動の充実、普通教科科目および専門教科科目の基礎学力の定着と向上 ・専門教科への興味関心の涵養 ・看護師国家試験合格を目指した学習指導の確立 ・専攻科生への進学指導の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度高校から専攻科への進学率は100%である。しかし、5年一貫教育は専攻科への入試というハードルがないためか、学習への取り組みが十分でなく普通教科科目や専門教科科目の基礎学力が定着していない生徒が見受けられる。 ・国家試験合格率は1回生・2回生とも96.8%であった。 ・専攻科2年生は進学希望者が5名で、保健師学校・助産師学校入学を希望している。 ・看護実践能力のうちとくにフィジカルアセスメント能力やコミュニケーションスキルが不足している。 	
達成目標	①看護師国家試験合格率100%	②進路希望達成度100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を高める教科指導法および看護科行事の工夫改善を図る。今年度は名古屋大学教授のフィジカルアセスメントの講演会（実技を含めた内容）を実施する予定である。 ・今年度、県内の新設看護師養成学校2校から第1回生が卒業する。このことは本校の就職にも影響が考えられるため、希望進路に向けて個別指導を強化する。 ・各科目間の連携を図り、内容の精選と指導法の工夫をシラバスに反映するとともに臨地実習の充実に努め、看護師国家試験に対応する。 	
達成度	看護師国家試験合格率100%を達成した。	就職……希望就職先内定 100% 進学……希望進学先合格 75%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間を見通した指導計画を見直した。 (1)毎週の教科会議を通して科目間の連携を図った。また、演習や校内実習時は科目責任者による指導者打ち合わせ会をもち、看護行動の動機を明確にすることに主眼をおき、それぞれの行動の意味を正しく理解させる授業計画書を作成し授業内容の充実を図った。 (2)各臨地実習先における指導者との協議会では、実習の問題点や課題を協議し改善に努めた。 (3)昨年に引き続き、生徒の興味関心を高める教科指導法を改善した。また、看護科行事を、高校と専攻科の連携、他の5年一貫高校との連携、高大連携、地域との連携という視点で工夫改善した。 ・対象の健康レベル・健康問題の反応を見て、健康状態を判断し、看護の必要性を見だし、対象に適切な看護を提供する能力向上を図るため、その看護教育分野で第一人者である名古屋大学の山内教授による実技を含めた講演会を実施した。これは今後の校内実習にもつながる有意義なものとなった。 ・国家試験対策の特別授業を放課後に実施した。 ・保健師・助産師学校や大学の養護教諭特別別科進学希望者4人に対し、小論文指導、面接指導等を実施した。 ・看護科・専攻科全生徒の意識調査を例年と同じ時期に実施し問題点を確認する。 	
評 価	① A	看護師国家試験の出題形式が新しくなり、全国の合格率(89.9%)が低下しているなかで、本校看護科は100%を達成した。過年度生も合格し、卒業生全員が看護師国家資格を取得した。
	② B	大学特別別科養護教諭課程、保健師養成機関の受験倍率は3倍程度であったが、希望者は100%合格した。助産師養成機関の受験倍率は8倍であり、希望は達成できなかった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・看護する人は心身ともに強くなければならないと思う。 ・人生の中の5年間は長くないと思う。しっかりしたカリキュラムで、時間を無駄にしないことが大切。 ・将来のしっかりした目標があり、多くの実習もあるので5年間は長くはないのではないかと。今後も看護科に期待している。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学希望者に対する指導対策の充実を図る。 ・生徒の進路選択を適切なものとするため、卒業生との進路懇談会の内容を充実させる。 ・生徒の意識調査を分析し、意欲関心を向上させる教科指導や看護科行事の工夫・改善を図ると同時に、悩み等に対する面接を充実させる。 ・看護師国家試験に合格する学力と、臨地実習に対応できる力を養成するため5年間を見通した指導法を改善する。特に、各科目担当者・外部講師・非常勤講師と授業内容の重複がないよう調整する。 	

(評価基準

A：達成した

B：ほぼ達成した

C：現状維持

D：現状より悪くなった)